

フランス語の概数表現

à peu près と près de

安達博明

0. はじめに

本稿では、フランス語の概数表現 *à peu près* と *près de* を取り上げる。(1)と(2)はそれぞれの用例⁽¹⁾である。

(1) On voyait *à peu près* vingt films par semaine. 1/4/98

(2) Une noria d'hélicoptères luttant contre des vents de *près de* 80 nœuds (150 km/h), [. . .] 29/12/98

Charaudeau (1992) は概数表現に2ページほど割いているが、そこでは *à peu près* と *près de* は異なる項目に分類されている。両表現とも *près* を中心に構成されていることを考えると、興味深い。

本稿では、Charaudeau (1992) のこの分類を参考にしつつ、*près* という語を含む概数表現という共通点をもちながら、なぜ *à peu près* と *près de* は機能を異にするかを解明したい。そのためには、両者が互いに交代不可能な用法を考察する必要があるだろう。概数表現以外の用法も扱うのはそのためである。コーパスは、Le Monde sur CD-ROM 97-98 を使用した⁽²⁾。

1. Charaudeau (1992) の記述

まず Charaudeau (1992) の記述を簡単に紹介しておこう。Charaudeau (1992) は概数表現を6つに分けているが⁽³⁾、上で述べたように、*à peu*

près と *près de* は異なる項目に分類されている。両者に関わる箇所を以下に引用する(太字, 斜字体は Charaudeau による)。

[à peu près に関わる箇所]

environ, à peu près, autour de, aux alentours de, dans les, de l'ordre de, quelque, quelque chose comme (ça) , ça va chercher dans les, etc., correspondent également à “ *plus ou moins* ” que la référence donnée par le nombre :

“ Cette salle doit contenir **environ (à peu près, autour de, quelque, dans les, quelque chose comme)** cinquante personnes . ”

“ C'est un marché qui va chercher dans les 50 millions ”.

[*près de* に関わる箇所]

près de . . . , . . . à peine, . . . (tout) au plus, signalent, avec des nuances diverses, une quantité qui se situe en-deçà de la référence donnée par le nombre :

“ Il te faudra **près de** deux mois pour récupérer ” (avec nuance de degré fort).

“ Il te faudra **à peine** deux mois (**au plus**) pour récupérer ” (avec nuance de degré faible).

“ Il te faudra **tout au plus (au grand maximum)** deux mois pour récupérer ”.

pp. 245–246.

この分類において興味深いのは, *à peu près* と *près de* が *près* を含む概数表現という点では共通しているにもかかわらず, 機能が異なるとされている点である。つまり Charaudeau の記述によれば, *à peu près* の場合は基準として立てられた数 la référence donnée par le nombre (以下 R) より小さい数も大きい数も容認可能であるのに対して, *près de* の場合は R よりも小さい数しか容認されないということである。この記述に即して(1)と

(2) を解釈すると, (1) では1週間あたりに見た映画の本数が20本未満でも20本を上回ってもよいことになり, (2) では風速が80ノット未満ということになる。

2. 概数表現以外の用法

à peu près と *près de* は, 概数表現としてのみ使用されるわけではない。そして, 概数以外の場合にも互いに交代不可能な用法を持っている。このことは, *à peu près* と *près de* との間に本質的な意味上の相違点が存在することを示唆している。この相違点は概数表現においても当然反映されるはずなので, *à peu près* や *près de* の概数表現としての機能は, それぞれの意味の一環として捉えるべきである。そこで, *à peu près* や *près de* の機能はどのように規定できるかを, 概数表現を観察対象から除外して考察してみよう。

2. 1. *à peu près*

コーパス中の用例の観察から, *à peu près* は, 動詞, 名詞, 形容詞, 副詞, 前置詞句など様々な要素を修飾することができると言える。

(3) Comme on était payé au rendement, on s'en sortait *à peu près*, même avec trois enfants en bas âge. 5/12/98

(4) C'est *à peu près* la situation de l'ordinateur aujourd'hui. 1/12/98

(5) C'était *à peu près* obligatoire, puisque la hauteur maximale du bâtiment avait été fixée à 9 mètres pour ne pas gêner les riverains. 27/11/98

(6) *A peu près* simultanément, il invente un pot de fleur en terre, le remplit de ciment jusqu'au bord et peint le tout en rouge. 30/12/98

(7) Mais, malgré les jalousies et les rancœurs, tenaces, tout ce monde coexiste désormais *à peu près* en paix. 19/11/98

(3)-(7)において *à peu près* が修飾する語句を X とすると、これらの例において *à peu près* と X で表わされる意味は「ほぼ X」(X を下回る)である。では、なぜこのような意味内容が成立するのだろうか。

この表現は *près X* の箇所で「X に近い」ということを、*à peu* の箇所で「わずかな差で」ということを表わしていると考えられる。そこで *à peu près X* 全体が表わす意味は、「わずかな差で X に近い」、つまり「ほぼ X」となる。

ただし、*à peu près* が概数表現として使用される場合と、(3)-(7)のように使用される場合では、その振る舞いがやや異なるという点を指摘しておく必要がある。前者では R より大きい数も小さい数も容認可能であることから、R に対して生じる差は「不足」あるいは「過剰」の2通りが考えられる。ところが後者では「過剰」は考えられない⁽⁴⁾。というのも、(3)-(7)のような場合は、X を上回るということが想定しにくいからである。「過剰」という差を考慮しなければならないのは、*à peu près* の持つ意味によるものではなく、*à peu près* と数のスケールの関係によるものだと考えざるをえない。

ところで、この「わずかな差で」とは何に起因する要素だろうか。表現 X の適切性を低下させる要因に由来する要素だと考えられる。例えば(7)では、*malgré les jalousies et les rancœurs, tenaces* が示すように、いくつか問題が残っている。そのため発話者としては表現 X (*en paix*) を全面的に認めるに至らず、*à peu près* を添えることで断定を回避しているのである。とはいえ、「わずかな差で X (*en paix*) に近い」状況が成立していることを発話者は認識していると考えられる。そこで *à peu près* の持つ機能を次のように規定しよう。

à peu près の機能

表現 X (*à peu près* が修飾する語句)の適切性をわずかに低下させる要素を認めながらも、表現 X の使用に関しては支障がないという発話者の態度を表示すること。

2. 2. *près de*

コーパス中の用例の観察から, *près de* には場所を表わす名詞が後続することが多いと言える。

(8) Je dirais, de prime abord : il est fidèle ; deuxièmement, il a toujours de l'humour ; troisièmement, il aime beaucoup la nature, il a vécu des années *près de* chez moi, dans la forêt ; il aime les enfants ; il n'est jamais fatigué ; alors, c'est un homme d'amour! 28/12/98

(9) La Mission d'observation des Nations unies en Angola (Monua) a annoncé, lundi 28 décembre, que des signaux en morse avaient été détectés par le personnel de l'ONU dans le centre du pays, *près du* lieu où l'un de ses avions a disparu, samedi, avec quatorze personnes à son bord. 30/12/98

(8) では “ il ” の住んでいた場所と “ je ” の家との近接性が, (9) ではモールス信号が捕捉された場所と国連の飛行機が消息を絶った場所との近接性が述べられている。これらの例では, *près de* は異なる 2 つの要素の空間的な近接性を表現するために使用されている⁽⁵⁾。

また, *près de* には不定詞も後続する。

(10) Les face-à-face dont rêvait Daniel Cohn-Bendit ne sont pas *près d'être* programmés. 30/12/98

(11) “ Les joueurs de certains pays ne sont pas *près de* pouvoir s'équiper pour accéder à Internet, que ce soit pour des raisons technologiques, économiques ou politiques ”, rappelle Frank Geider. 28/12/98

(10) や (11) も不定法とその行為者を近接性という概念によって結び付けられていると考えられるので, (8) や (9) から導き出した説明原理を放棄しなくてよい。ところで, この説明が (10) や (11) についてはアド・ホックなものではないかという懸念も予想される。しかし, 本来場所を表わす名詞が来る

位置を不定法が、そして主語位置をその不定法の行為者が占める構文はフランス語では決してマージナルなものではない。例えば、移動を表わす動詞 *arriver* や *parvenir* は、前置詞 *à* を介して不定法を従えることで文主語の指示対象が不定法の表わす内容を達成するということを表わす。

(12) Je n'ai pas vraiment négocié la prise en charge de mes voyages,
mais j'*arrive* à rentrer régulièrement dans mon pays pour voir
mon amie et ma famille. 9/12/98

(13) Par son dynamisme et son discours, Jacques Chirac *était parvenu*
à impressionner ses pairs. 3/6/97

不定法の表わす内容の達成が表現できるのは、*arriver à* や *parvenir à* が空間的に用いられた場合、これらに後続する名詞が移動の到達点を表わすことから説明できる。*près de* は空間的に用いられた場合、後続の名詞によって表わされる場所と他の場所との近接性を表わすので、不定法と行為者の関係においては *être sur le point de inf.* にほぼ相当する意味を表わすことになる。そこで、*près de* の持つ機能を次のように規定しよう。

près de の機能

異なる 2 つの要素の近接性を表わすこと

3. 概数表現としての *à peu près* と *près de*

前章では、概数表現を観察対象から除外して *à peu près* と *près de* の機能を規定した。この章では、それぞれの機能が概数表現においてどのように反映されているかを考察する。

3. 1. *à peu près*

à peu près においては、*à peu* が「わずかな差で」を表わすということであったが、概数表現ではこれは何であると言えるだろうか。

表現するのが煩わしい数、あるいは正確な算出が困難な数(このような数を

以下 Q と呼ぶ) を, 分かりやすい数を用いておおよその規模として伝えるとき概数が使用される。しかし Q と R との間には当然差が生じる。à peu près が概数表現として使用されるとき, à peu に相当するのはこの差であると考えられる。

ところで, 先にも述べたように, 数のスケール上では R に対して Q が「より小さい」と「より大きい」のどちらかであるが, Charaudeau (1992) によると, à peu près ではどちらも同時に容認されることになる(第1章参照)。この主張を, 前章で規定した à peu près の機能とどのように結びつけることができるだろうか。

正確に情報を伝えるという観点からすると, R と Q が等しくないことから R は適切性を欠くと言える。ところで, R に対する Q の「より大きい」も「より小さい」も差という点では全く等価であることから, どちらも表現 X (R) の適切性をわずかに低下させる要素として共に認識されうる。したがって, à peu près は R より小さい数も大きい数も同時に容認可能であると説明できる。à peu près の持つこの性質は(14)によく表れている。

(14) Les coureurs eux-mêmes se satisfont de plus amples approximations. “A peu près 3 900 bornes”, croit savoir Pascal Chanteur, de l'équipe Casino. 8/7/97

自転車競技において選手が走らなければならない距離をめぐる各新聞社や Tour de France の責任者が数字を報道するという文脈が(14)には先行している。そこで出された数字は 3 870 km / 3 842, 3 km / 3 942 km / 3941, 8 km / 3 950 km, “environ” の5つである。ところが, 選手たちは厳密な数を必要としておらず, 3 900 という数字を出すものが出てくる。つまり, 「より小さい」と「より大きい」という差を容認するのであれば, 先の5つの数字に対して立てられた R である 3 900 は近似値として機能する。この文脈では, “à peu près 3 900 bornes” によって, どちらの差も容認する à peu près の性質を確認できる。

では, R (3 900) はどのようにして決定されたのだろうか。à peu près

の使用と関連づけると次のように説明できる。 $R(3\ 900)$ は報道された 5 つの数全てを考慮して採用された数である。このことが伝わるようにするために、5 つの数のうちで最も小さい数 (N_1) と、最も大きい数 (N_2) を選び出し、両者の間に適当な R を設定した上で *à peu près* を加えたものが“*à peu près 3 900 bornes*”と考えることができる。*à peu près R* の構造は次のように図示できる。

図 1



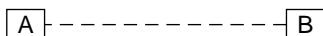
そこで、(14) のような特別な文脈が用意されていない場合でも、図 1 が示す構造に基づいて *à peu près R* が解釈できると考えてよいだろう。例えば (1) は、動詞の時制が半過去であるということと、“*par semaine*” の存在から、過去の習慣を伝えている。そこで、最も多い本数を見た週と、最も少ない本数を見た週を考慮した上で、“*à peu près vingt films par semaine*” と発言したと考えられる。

3. 2. *près de*

前章で規定した *près de* の機能は、「異なる 2 つの要素の近接性を表わすこと」であった。「異なる 2 つの要素」は概数表現では Q と R に置き換えられるが、それでもこの定義は概数表現としての *près de* を説明するには不十分である。なぜなら、「異なる 2 つの要素の近接性を表わす」というだけでは、 $Q < R$ の場合も $R < Q$ の場合も適切だからである。しかし、Charaudeau (1992) の分類では後者の可能性は排除されている。したがって、 $R < Q$ の場合が容認されない理由を述べる必要がある。そこで、「異なる 2 つの要素の近接性を表わすこと」という規定を別の角度から見直す。

「異なる 2 つの要素の近接性を表わすこと」を図 2 のように示す。 A, B は異なる 2 つの要素を表わす。「近接性」を認識するためには、 A, B の間に存在す

図 2



る「隔絶」(図2では破線で表現)の存在が必要条件であると言える。この条件を、数のスケールにどのような形で適用できるだろうか。 $Q < R$ が満たされている場合と、 $R < Q$ が満たされている場合とをそれぞれ図3, 図4のように示す(Q は任意の数)。太線は Q 以下の数が存在している箇所を表わす。

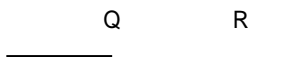
図 3 ($Q < R$)図 4 ($R < Q$)

図3は *près de* が概数表現として適切であるときの条件, 図4はそうでないときの条件である。これらの図から, Q と R の関係は $Q < R$ の場合と $R < Q$ の場合とでは異なる性格を持つものとして捉えることが可能になる。図3では R は Q 以下ではないことから, Q と R の関係は「不連続である」ということになる。数のスケールにおけるこの「不連続」という性質は、空間的な用法における「隔絶」と平行関係にあるとみなせる。一方, 図4では R は Q 以下であることから, Q と R の関係は「連続である」ということになり, 「隔絶」に相当するものが存在しない。

まとめると, $R < Q$ という条件下では R と Q の間に連続性が生じ, *près de* の持つ空間的な意味特性をアナロジーとして適用できなくなるので, *près de* を概数表現として使用することはできないと説明できる。

ところで, *près de* が概数表現として使用されたとき, 表現効果と呼べるものが伴うと言える。(15)はその効果をよく伝えている。

(15) Baudouin Koenig a mis *près de* quatre ans pour achever “Du Golfe au Kurdistan, des hommes abandonnés de Dieu”, [...]. Deux ou trois ans d'effort, c'est déjà beaucoup pour un film. Il est rare qu'on puisse aller au-delà. Le temps, c'est de l'argent, et aucune

production ne peut suivre. 9/2/98

Baudouin Koenig なる人物が1つの映画を仕上げるのにかった期間を“près de quatre ans”と表現している。後続の文脈から分かるように、映画を完成させる場合、4年は長いと捉えられていることが分かる。したがって près de は、概数として使用された数が特定の場面において大きいと位置づける効果を持つ⁽⁶⁾。

また、près de がこのような効果を持つのであれば、次のことが言える。ある場面对して与えられた数表現が、規模の点から考えて不足なのか、適切ななのか、あるいは過剰なのかが、情報の受け手には容易に判断できないときがある。例えば(2)ではヘリコプターの飛行能力と、対応可能な風速の限界を一般の読者が関係づけることは難しい。ところが、près de は先に見たとおり「概数として使用された数が特定の場面において大きいと位置付ける効果を持つ」のであるから、près de 80 nœuds (150 km/h) と性格づけられた風速は、ヘリコプターの飛行にとっては通常の風速を上回っているということを読者に伝えることが可能である。

4. おわりに

本稿では概数表現 à peu près と près de を取り上げた。両表現は près という語を中心として構成されていながらも、Charaudeau (1992) が異なる項目に分類していることに着目し、その分類を参考にしながら、概数表現として使用されているのではない用例も交えて両表現の機能を規定した。

フランス語における概数表現は非常に多くの種類が認められ、ここで扱ったのはほんの一部に過ぎない。他の概数表現との比較など、問題もまだ残されている。これについては今後の課題としたい。

注

(1) 用例中の斜字体は筆者による。

- (2) 刊行年月日を記した用例は Le Monde sur CD-ROM 97-98 によるものである。
- (3) Charaudeau (1992), pp. 245-246 (L'expression de l'approximation) 参照。
- (4) ただし, 「過剰」を考えることが可能な形容詞がある。
- (5) 抽象的な事柄を表わす名詞句が *près de* に後続する用例も見られる。
 Le RUF chassé vers la brousse, son chef historique, le caporal sexagénaire
 Foday Sankoh, sous les verrous, bientôt jugé et condamné à mort, le régime
 de M. Kabbah semblait tout *près de* la victoire. 29/12/98
- (6) Charaudeau (1992), pp. 244-245 (L'expression du degré de quantité) 参
 照。

参考文献

石野好一：「ファジーなフランス語」, 『ふらんす』(1990 年 4 月 - 1992 年 3 月), 白水社 .

Charaudeau P . (1992) : *Grammaire du sens et de l'expression*, Hachette.

Le Goffic P . (1993) : *Grammaire de la Phrase Française*, Hachette.

Corpus : Le Monde sur CD-ROM 97-98

大学院文学研究科博士課程後期課程